

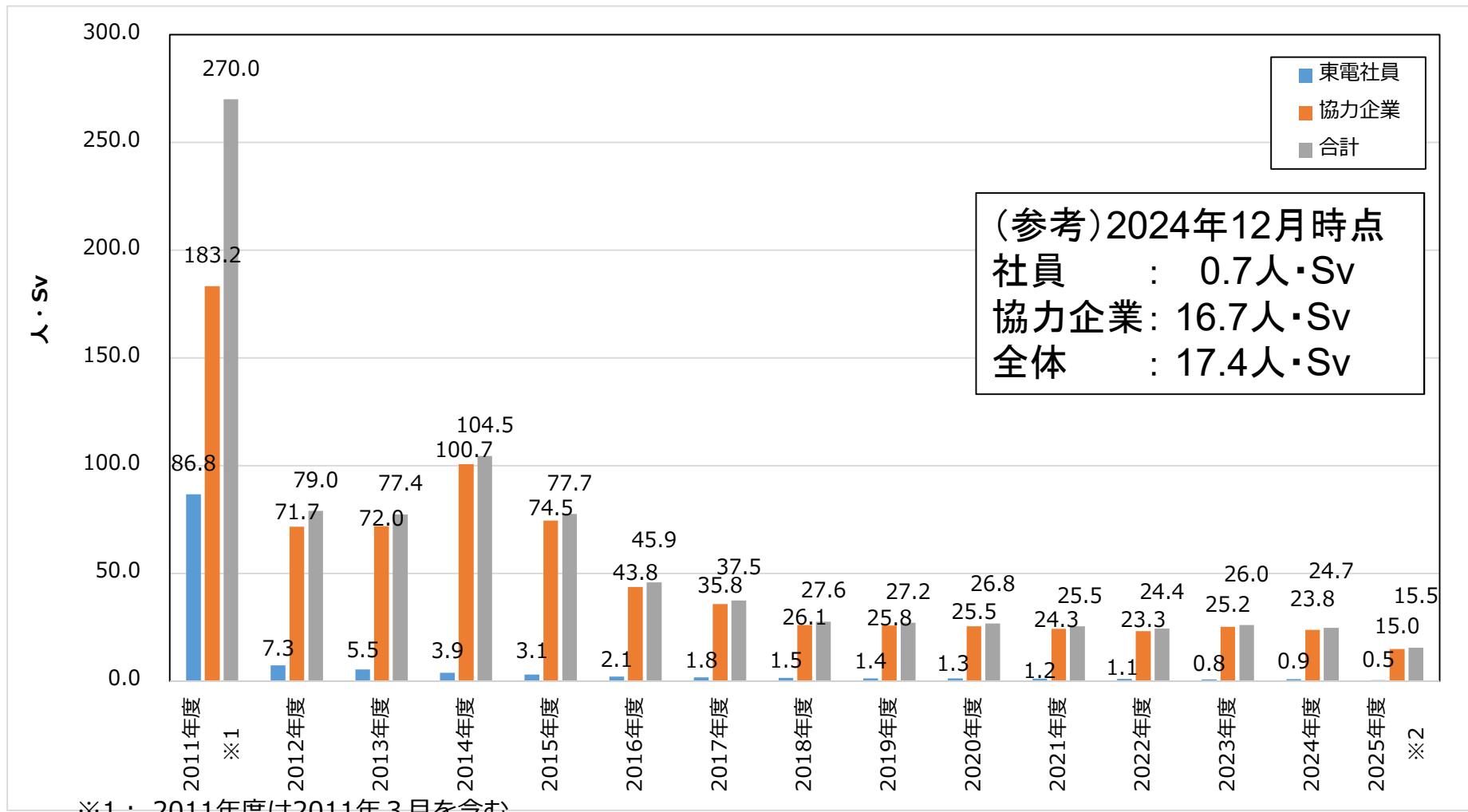
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2026年 2月 5日

東京電力ホールディングス株式会社

①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

■ 前年度同時期と比較して同程度となっている。

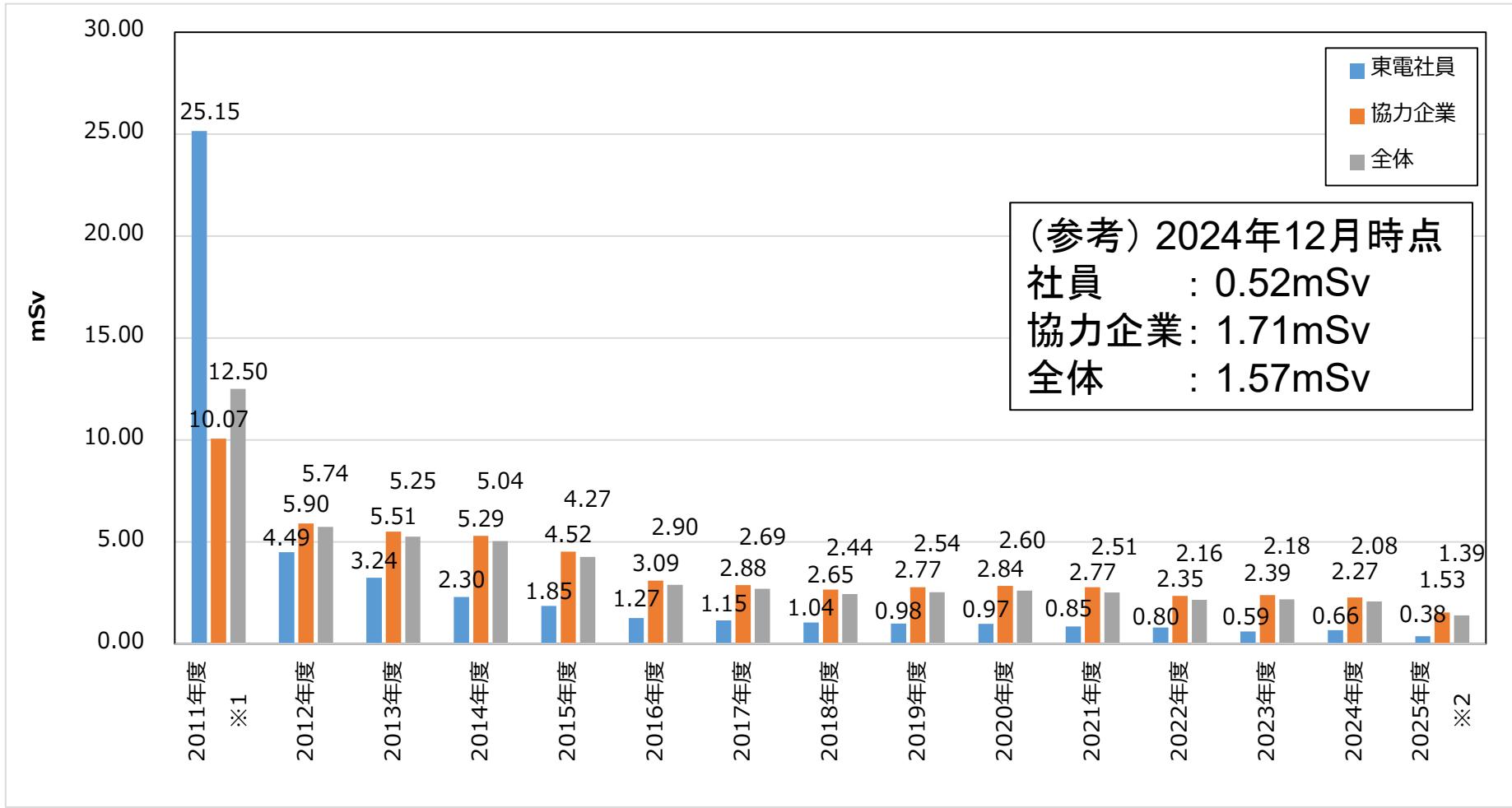


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の12月分は暫定値（APD値）である

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

- 前年度同時期と比較して同程度となっている。

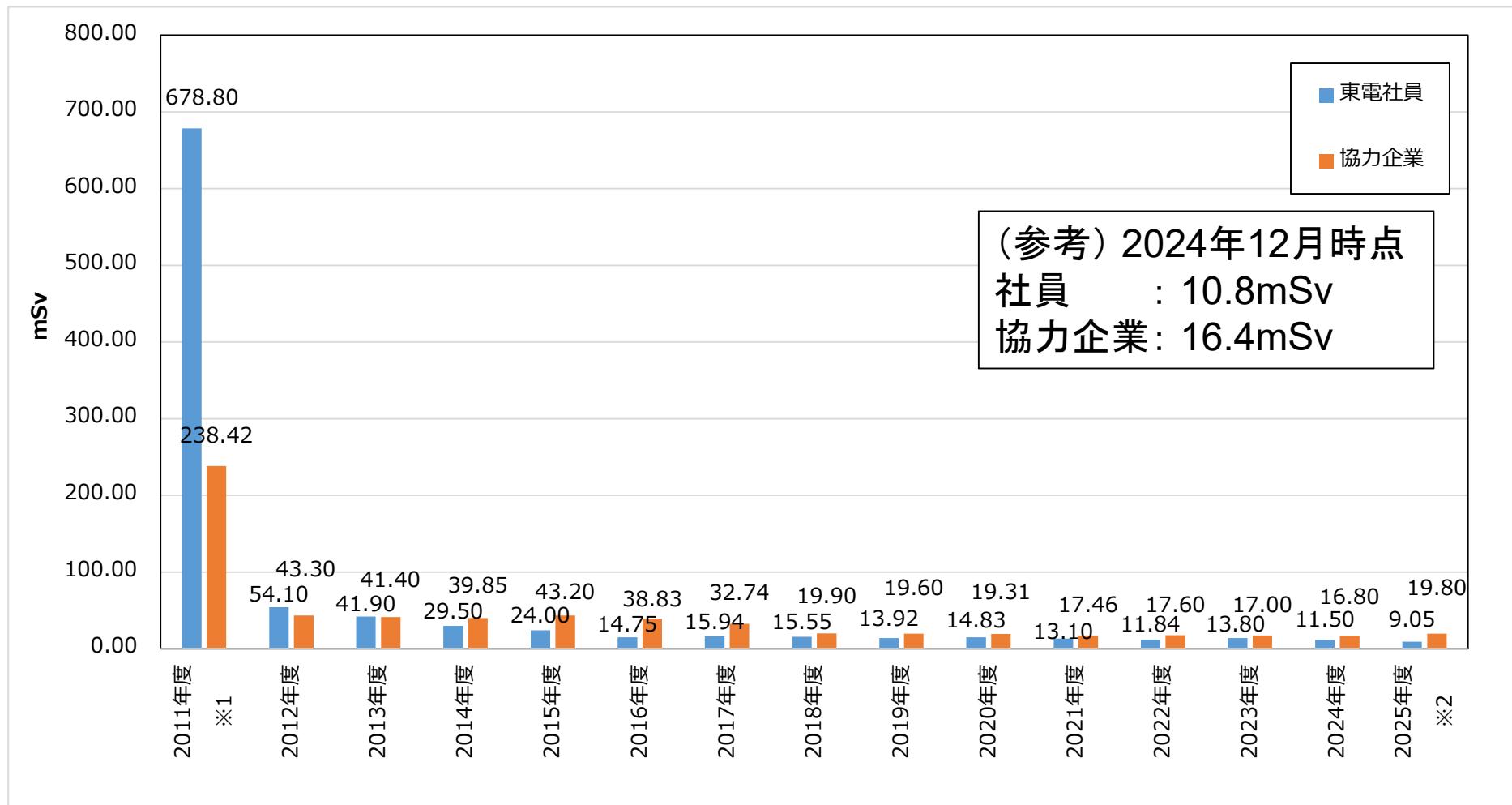


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の12月分は暫定値（A P D値）である

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

- 前年度同時期と比較して同程度となっている。

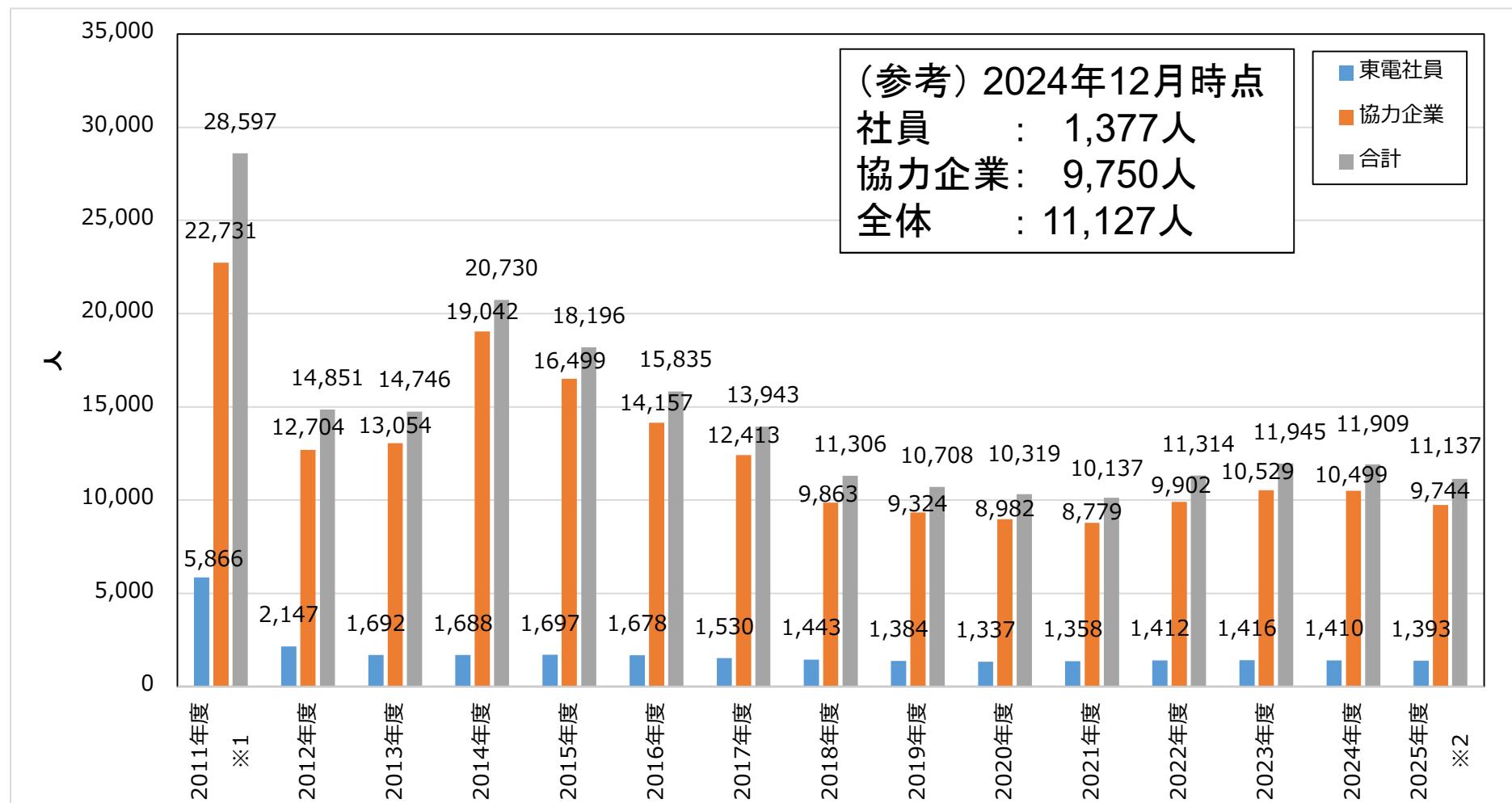


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の12月分は暫定値（APD値）である

④発災以降の年度別放射線業務従事者数

- 前年度同時期と比較して同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の12月分は暫定値（A P D値）である

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2025年度

区分(mSv)	2025.4月～2025.12月		
	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	0	368	368
5超え～10以下	19	684	703
1超え～5以下	121	1,790	1,911
1以下	1,253	6,902	8,155
計	1,393	9,744	11,137
最大(mSv)	9.05	19.80	19.80
平均(mSv)	0.38	1.53	1.39

○2025年度（2025.4月～2025.12月）に作業実績のある11,137人のうち

11,137人 (100%) は50mSv以下

11,137人 (100%) は20mSv以下

10,066人 (90.4%) は5mSv以下

○全ての作業者について被ばく線量は、50mSv/年および100mSv/5年の線量限度を超えないよう、20mSv/年を上限値として管理をしている。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

※ 2025年度の12月分は暫定値（A P D値）である

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

区分(mSv)	2021.4月～2025.12月		
	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	2	2
50超え～75以下	0	192	192
20超え～50以下	41	1,577	1,618
10超え～20以下	88	2,068	2,156
5超え～10以下	146	1,881	2,027
1超え～5以下	399	3,036	3,435
1以下	1,405	10,025	11,430
計	2,079	18,781	20,860
最大(mSv)	43.18	76.43	76.43
平均(mSv)	2.21	5.94	5.57

○2021.4～2025.12に作業実績のある20,860人のうち

20,860人 (100%) は100mSv以下

20,666人 (99.1%) は50mSv以下

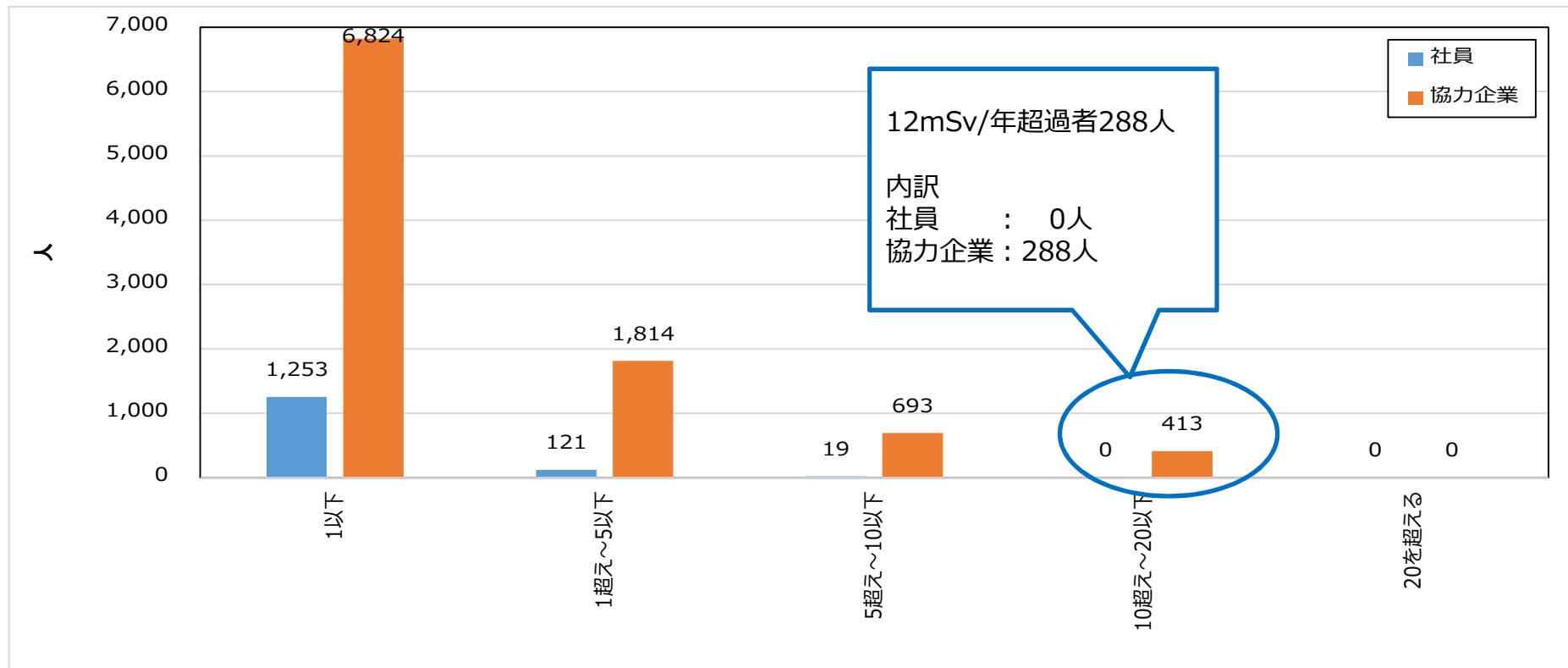
19,048人 (91.3%) は20mSv以下

○全ての作業者の被ばく線量については、
100mSv/ 5年の線量限度を超えないよう、
80mSv/ 5年を上限値として管理をしている。

※ 2025年度の12月分は暫定値（APD値）である

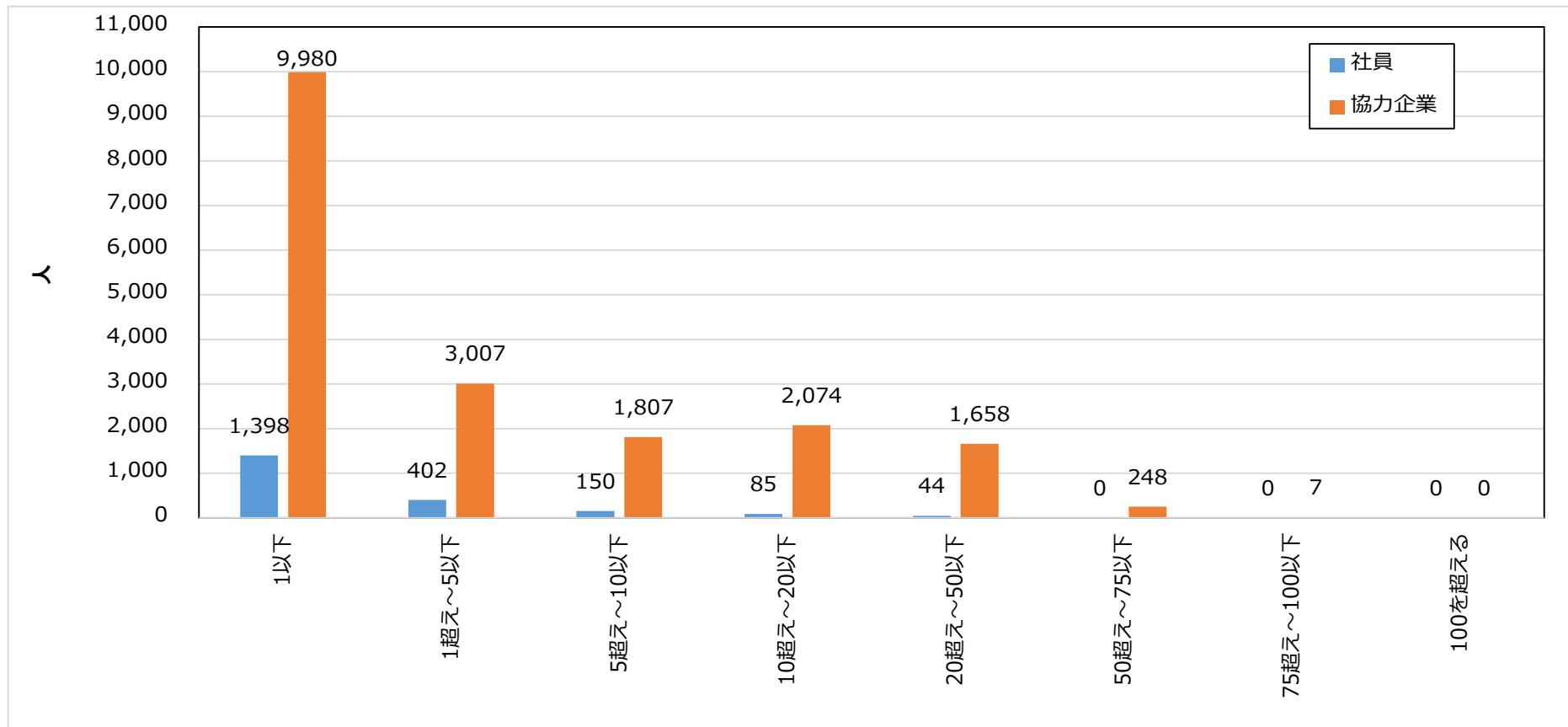
⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2025年度）

- 2025年12月分までの眼の水晶体の最大線量は、17.01mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量測定（眼の水晶体近傍（又は頭頸部））を開始している。



⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、78.54mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/ 5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/ 5年の管理をしている。

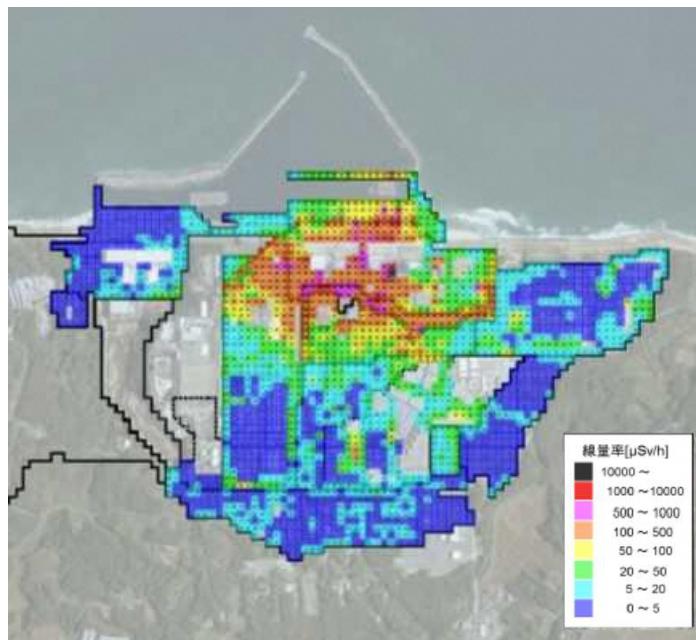


※ 2025年度の12月分は暫定値（A P D値）である

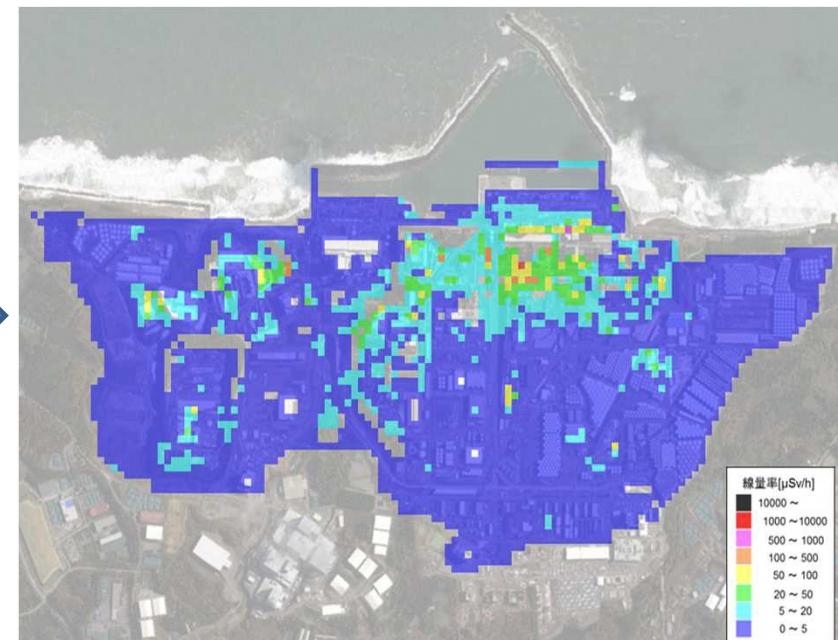
⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2025年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



2025年度



※ 空白部分は未測定エリア